我が家のネット・ゲーム・YouTube のルール

～12 月の「PTA講演会」で話題にするテーマです～

前号で、ネットやゲームや YouTube の視聴の際の「おうちのルールを教えてください」、「困っていることもあったら教えてください」と投げ掛けたところ、ある保護者からお返事をいただきました。掲載許可をいただきましたので（文章上多少の修正を加えさせていただきますが）石川小の保護者・地域の皆さんにも紹介します。なお、家族１人ではなく、例えば、親、祖父母、姉兄など、家族の大人全員で読んでいただけるとありがたいです。

ＤＳやＴＶゲームだけの時は「時間何分ルール」できちんと守れていました。が、YouTube を知ってから「時間ルール」を守らない、守れない状態になってきました。叱られると分かっていても、「あと３分。これ終わったらすぐやめるから」。これを信じ見守るが、やめない。叱る。怒る。教える、伝えるエネルギーをすごく使います。子育てや育児に休みはないので「叱る時は、ドン！」。あとは、子どもとじっくり話したり笑ったりまったりしたいものです。たくさん話合い、たくさん叱りましたが、私が「もういい！！」となり、我が家は、私が「やめなさい」と言ったら、すっぱりやめるルールにしてみました。

「これでやめられないなら、こういう便利な物を持つ資格のない人です」と子どもに伝えました。本来なら「時間ルール」で守れればいいのですが、残念ながら守れないので‥。私もできたら穏やかにやめてもらいたいので、「『やめなさい』でやめるルール」にしました。夫も同じルールです。子どもと全く同じなので‥。「子どもが見ています。いい加減やめてください」とお願いすると、スマホを置いてくれます。「やめてください」と言われる前にやめたら、「ほめ」ます。「自分で時間を気にしたの？」と聞くと、うなずき、誇らしげです。

過去に一度、このルールでもやめなく、声をどんどん大きくしたことがありました。スマホやＴＶのリモコンを私の鞄に入れ、持ち歩き、子どもたちは何もみるものがない状況にしてあげました。２日間でしたが、「私はキレたよ！！」という態度を、静かにですが、出しまくっていました。質問には答えるものの、「普段とは全く違うから」「許してないから」をアピールしました。この一度だけですが、２日間の私の態度で子ども二人は反省して、「二度とルールを破りませんからＴＶをみせてください」と言うので、再度話合い、どのルールにするか決めました。やっぱり「『やめなさい』と言われるルール」が良いという子どもに以下のことを付け足して伝えました。

「このルールでは、君たちの成長はないよ。自分で決めたルールを守れるように努力してください。私が伝えるのをやめたり、伝えることができない日が突然来たりしたら、君たちがジタバタするのです。ジタバタすらできず、ネットにどっぷり浸かることになってしまうかもしれない。どうなるか、なってみなきゃ分からないだろうけど、自分で決め、自分で守れる「自分」を考えてください。『考える⇒答えが分からなくても』、考えることで意識できる。これだけで、未来は明るいと、母は思います。私は、覚えることがとても苦手で、不器用で、とてもたくさん『悔しい』とか『恥ずかしい』と思ってきた。努力はしたけど、人並みにできること‥。努力して、自分なりのやり方を見付けて、『これで良し』と思えるようになってからは HAPPY でしたよ。今も、できないことや覚えられないことがあるけど、『分からない』『教えて』と周りに伝えて、教えてもらっている。心モヤモヤすることより、自分で考え自分のやり方を見付けることで心はスッキリする。これ、大事です」と。

うちは、今も、「『やめなさい』でやめるルール」が続いています。これは守れています。守らないと持っていかれるから、嫌なんでしょうけど‥。とりあえず、イライラの声掛けをくり返すがなくて平和です。子どもが、「自分でやめてくれる」「自分でルールつくれる日」‥、いつかな。

お手紙、ありがとうございました。家庭の約束を決めることや守らせることの大変さが伝わってきました。でも、やっぱり、「共感（やめる難しを分かってやる）」や「協働（共に行動する）」、場合によっては「毅然とした態度（守れないときの厳しい姿）」も必要なのですね。子どもが小・中の時は、親の指導がやっぱり大事なのだと感じました。これを読まれた皆さんのご家庭の「ネットの約束」「ルールの進捗状況」はどうでしょう。

「三歩進んで二歩下がる」という歌詞の歌もありましたが、一度ではうまくいかないことが多いようです。何度もくり返しながら、その家庭に合ったやり方・ルールを見付け出すしかないのかもしれません。